

営農情報

2019
1月号 No.75



J Aレーク伊吹 経済部 営農企画課
TEL 0749-63-2101 FAX 0749-64-2085

米原・近江支店担当 谷城 敏生
携帯 080-4761-6531

今月の話題

- ◆ 営経版 JALレーク伊吹自己改革ダイジェスト
- ◆ 需要に応じた米の生産をしましょう
- ◆ 農政ダイジェスト



今年も宜しく
お願いします。

亥

メモ

- ✓ JA水稻生産資材注文 **お早めに!**
1月18日まで
- ✓ ラウンドアップキャンペーン
3月30日まで
- ✓ 環境こだわり申請聞き取り日程
米原統括 1月24日 本店1階 13時半~17時
1月25日 米原支店 13時半~18時



昨年の12月14日に営農事業活性化チャレンジプラン成果発表大会があり、加工・業務用タマネギの栽培検証、普及PRについての発表で表彰を受けました。今後も検証を行いながら情報提供を行い、普及拡大と農家所得増大に向け取り組んでいきたいと思ひます。

JAレーク伊吹は、“農家所得の増大”と“農業生産の拡大”“営農経済部門の体型強化”を自己改革目標としています。今月号では、その具体的な取組み内容をダイジェストでご紹介します。

①農家組合員の所得増大

事前契約買取販売方式へ

実需者が求める需要を早期に確保するため、米の契約の時期を出荷申出(2月)、播種前契約(4月)へと変更し、播種前契約ではJAに確実に出荷できる数量を確定させて頂き、安定的に有利販売ができるよう取組みました。



早期に確保する事で有利販売が可能!

複数年契約への取組み

主に業務用米として需要のあるキヌヒカリ、日本晴の増産ニーズに応えるため、販売先との複数年契約による保証価格での買い上げにより安心して生産ができ、安定的な農家所得が確保できる取組みを行いました。

取組み品種

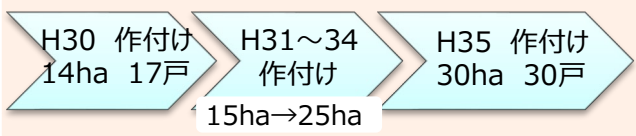


3年間の保証価格があり安心

- ・きらめきキヌヒカリ
 - ・あっぱれ日本晴
- ※31年産からの取組みは2年間です。詳しくは訪問担当まで

タマネギ生産への拡大

加工・業務用タマネギの機械化一貫体系による、生産性向上と労力軽減に向けた栽培技術の確立と、レンタル農機を用いた効率的な機械利用を確立し、生産拡大をはかります。



H35には、30haを目指しております。高収益作物の1つとして今後要注目!

低コスト資材の提案

肥料の「銘柄集約による新たな共同購入」により、生産資材費の引下げの取組みを行いました。

大好評

基肥

穂肥

分施肥体系



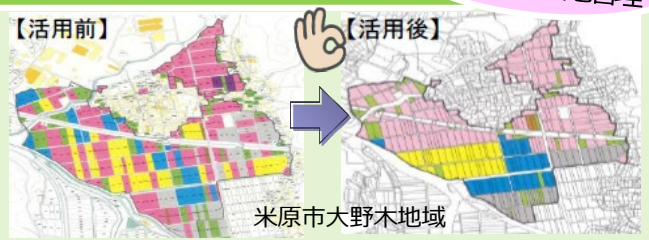
肥料費が10a当たり2,679円に!

②農業生産の拡大

行政との連携による「人・農地プラン」の作成と担い手の明確化

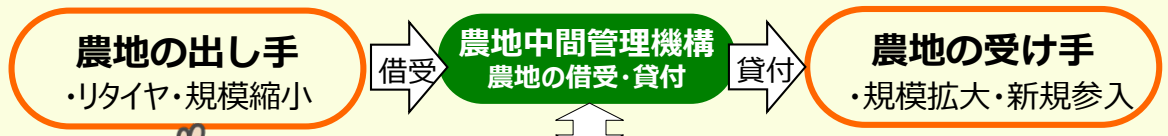
集落話し合いによる長期的な農地管理

持続的な地域農業と、集落機能の発展を図る事が求められており、集落・地域において徹底的な話し合いによる「人・農地プラン」の策定を行政と一体となり推進しております。



米原市大野木地域

担い手への農地利用集積



JA・市町・農業委員会とも連携・協力し、サポートを行っています。

③ 営農経済部門の体制強化

営農事業活性化チャレンジプラン 成果発表大会開催



営農事業活性化チャレンジプランとは、毎年、営農担当職員がテーマや課題を明確化し、その課題に取り組んだ成果を発表し合い、営農指導事業・職員の資質向上と情報・課題を共有化することで、営農指導の活性化を図っています。

発表方法：1人15分以内で発表資料は、パワーポイントで行う。
審査基準：成果発表大会審査基準に基づき、上位3名に表彰。
審査員：JALレーク伊吹会長・理事長・専務・総務、金融、経済理事部長・常勤監事・湖北農業農村振興事務所・全農しが

取組課題紹介

優秀

入江干拓善積地区経営体事業に向けた高収益作物の検討

JAの推進品目である加工業務用タマネギの栽培技術や機械一貫体系への省力化の検証を交えながら、今後の普及に向けてのPRを行った。

近江・米原地域 営農経済渉外

飼料用米吟おうみの試験栽培を通じた農家所得増大への試み

現在の飼料用米の荷受け品種である日本晴と多収性品種である吟おうみとの栽培、比較試験を行い、有効なのか？また、栽培上の不安要素や今後の課題について検討した。

長浜地域 TAC

最優秀

みょうがの産地として復活するために

伊吹の伝統農産物であるみょうがについて、現状を調査・分析し、産地として復活するための手段を考案した。

特産振興課

生産振興野菜の将来品目としての里芋栽培検証

里芋栽培を実践し、生産性と収益性を調査し将来の野菜振興の品目への可能性についての検証を行った。

伊吹・山東・柏原地域 営農経済渉外

優秀

SNSツールを利用した営農相談機能の充実

訪問先農家のニーズに応え、LINEを使用した営農相談を行い、満足度や汎用性があるのか、どういった場合に有効利用できるのか検証を行った。

長浜北・北郷里地域 営農経済渉外

花卉生産者の経営実態把握と分析

花卉生産について、実際の経営状況等の情報が非常に少ない現状である為、花卉生産者の経営実態を調査し見える化を行い、今後、推進を行う材料とした。

長浜南・南郷里地域 営農経済渉外

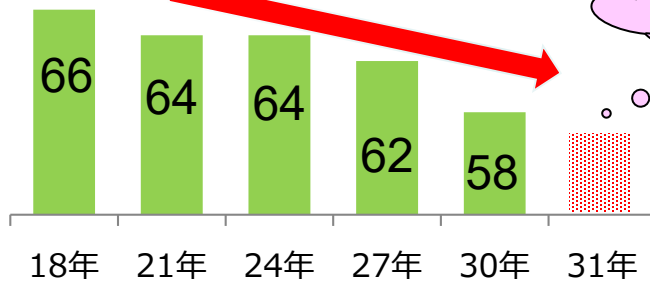
上記内容は、今年の実施課題の一部になります。今後もさらなる営農経済部門の体制強化を図って参ります。

需要に応じた米の生産をしましょう

米の需要は年々減少しており、例年8万トンずつ減少していましたが、平成31年度からは毎年約10万トンずつの需要減少が見込まれます。

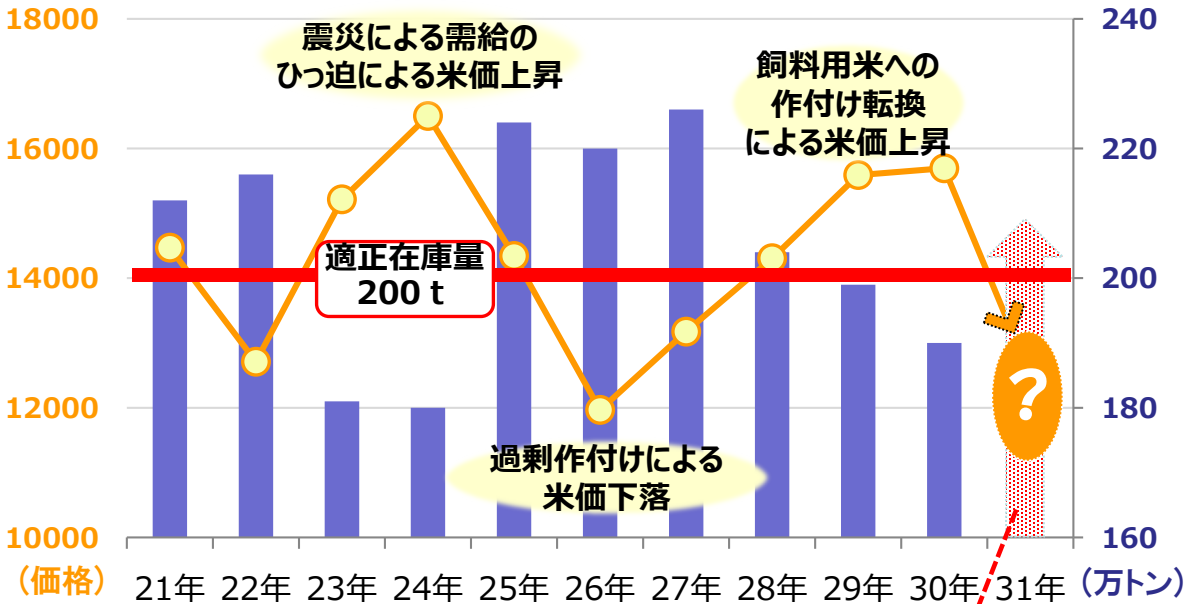
米の消費量から見る今後の需要の見通し

一人当たりの米消費量（1年間・kg）



31年度も米消費量が減少するため需要も減少

米の平均価格と在庫量の推移



在庫量が増えると米価が下がり、在庫量が減れば米価が上がる傾向となっています。消費量が減少傾向であるため需要に応じた米の生産を行い米価格の安定に努めましょう。需要が減少傾向であるため、今後も水田フル活用における生産調整が必要です。

在庫量が200万トンを超えると米価格の低下に繋がる傾向にあります。交付金などを活用し生産調整を進めましょう。

ひと月の動き

農政ダイジェスト

農業・地域の雑誌「地上」より抜粋
～定価（税込）606円 購読申込受付中～

18年産小麦の収穫量が15%減

全国の小麦収穫量は76万8100tで、前年比15%減の減少だったことが農水省の統計でわかった。10a当たりの収量は362kgで前年比15%減。北海道の秋まき小麦が、登熟不良となった影響。

農地バンク見直し案がまとまる

自民党農地政策検討委員会は、農地中間管理事業の見直しを取りまとめた案を了承した。「人・農地プラン」の充実化を図り、JAや市町村が担ってきた集積事業は、農地中間管理機構に統合一体化し、借入・転貸の権利設定を一括して引き継ぐ制度を設ける。